

RNN
Religious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996

世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信教者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

冬よがぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献トピア岡山構想を推進する会内
人道援助宗教委員会委員長：西村美智雄
広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org/>

RNN事務局長：黒住宗道

緊急シンポ

イスラムーその平和の教えー
日本ムスリム協会会長 樋口美作会長を迎えて

第7回RNNボランティア講座



樋口美作会長は、早稲田大学法学部を卒業後、エジプト政府留学生としてカイロのアズハル大学に学び、民間会社勤務の間、エジプト、イラク、サウジアラビアでの合計13年間の生活を経て、現在は日本人イスラム教徒による唯一の宗教法人「日本ムスリム協会」の会長としてイスラム教の正しき理解を人々に促すために献身されています。

RNNでは、9月11日に起きた「米国同時多発テロ」の影響で、「危険な宗教」と誤解されがちな「イスラム教」を正しく理解しよう——との願いのもと、10月3日午後2時から、宗教法人「日本ムスリム協会」会長の樋口美作氏を迎えて「イスラムーその平和の教えー」をテーマに第7回RNNボランティア講座を緊急開催しました。

3日は、まだテロ報復としてアフガニスタン・タリバン政権への武力行使が開始される前の段階で、米国の動向が見守られるとともに、緊張が高まっていたこともあり、会場の岡山市上中野の忠魂神社内、黒住教武道館には、緊急開催ということで十分な広報ができなかつたのにもかかわらず、300人を超える大勢の方々に「参加頂きました」。

さらに多くの新聞、テレビ等の報道機関の取材もあり、「イスラムの平和な教え」を広く報道して頂いたことも、たいへんありがたいことでした。

「神が私を魔羅の誘いからお守りくださるよう、慈悲深き、アッラーのお名前において、皆様に平安がありますように、神のご加護のあらんことを」とイスラムの祈りを捧げ、講演に入りました。

イスラム社会は非常に宗教

を大切にし、強い連帯感、帰属意識を持つている信仰集団。決して善良的なものではなく、様々な宗教の存在も認め、家庭関係を重んじ、周囲、隣人を大切にし、挨拶を非常に重要視しています」と、エジプト、イラク、サウジアラビアでの13年間の生活経験を基に、平

世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信教者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

信仰の道に努力奮闘する
聖戦だけではないジハード



パネリストを務めた西村委員長、永宗副委員長、後藤副委員長

RNN初代委員長
眞言宗御室派長泉寺住職
宮本光研

10月3日
於黒住教武道館

和な暮らしぶりを紹介されました。

聖戦と訳され、「危険な宗教」との誤解を生む一因になつてゐる「ジハード」については、「聖戦」というのは非常に限定的な意味で、しかも幅広く、深い意味を持つっています。一般には「努力する」「勤勉」「一生懸命やる」など、肉体的、精神的に全力を尽くすという意味で、「コ一ランの中では『神(信仰)の道に奮闘、努力する』という意味を基本にして頻繁に使われています」と説明されました。

次いで、原理主義が発生した時代背景も交えながら「聖戦」の意味の変遷について次のように紹介されました。

「7世紀頃の初期のイスラム共同体において、あくまでも領土が外敵から侵された時に戦うことが本来の聖戦(ジハード)」。宗教指導者が聖戦と見なせば信者は義務を負い、身も財産もすべてをなげうつて戦い、戦死したならば殉教者として天国に召され、決して女性や子供など非戦闘員とは戦わないという筋の通った教えでした。

(次頁に続く)

イスラム社会は非常に宗教を大切にし、強い連帯感、帰属意識を持つている信仰集団。決して善良なものではなく、様々な宗教の存在も認め、家庭関係を重んじ、周囲、隣人を大切にし、挨拶を非常に重要視している

ぜ や か か よ 小 与 加 世

テロ多発中の旅

路やインド立つ▼
宗教がさまざまに問題になる国へ、人権修復と仏跡巡礼に出た。今般は「改宗仏教徒大集会」に参列し、日本代表として200万人民衆に挨拶で

いた。岡山出身のササイ秀穎師がその中心にいた▼シンボルで『反差別と宗教』を論じ、被差別の苦しみを打破するために仏教に改宗するインドの民。日本に仏教があるのに何故、同和問題がなお存在するのか問われた▼1945年まで「上御一人」が君臨、下万民が従属していた日本で各宗がその真髓、人間の尊厳を説くに至らなかつた。問題はそれが「終息」したのか、今日に「延長」されたままなのか▼激動の今年、学んだことの中で「神の他、神はないから、神」なのであり、総称してアッラーと呼ぶ」と、日本ムスリム協会・樋口会長の言葉▼一神論、多神教を論じ、未来の宗教和合を願う人類のよく考えるべきところだ。

11世紀から13世紀頃までの中期のイスラムになると、領土拡張のための聖戦に名を借りた戦いも行われるようになりました。

そして18世紀になり拡大したイスラムでは内部改革が叫ばれるようになり、「コーザンに帰れ、原点に戻ろう」と呼ばれるようになったのが原理主義の始まりでした。

さらに列強の植民地支配を受けるようになり、独立した現代に至つても、女性が肌を露出することなど欧米文化の流入や、政府が直接、間接的な支配を受けていることに対し、頗る反対する反政府運動が起きるようになります。

で一層過激な運動となり、武器を持つ過激急進派が出てきたようです」

決してイスラムではない

そして、樋口会長は、原理主義の台頭について語られ、原理主義が悪いのではなく、原理主義の一部の過激派が問題だ、と指摘されました。

さらに、樋口会長はコーザンの5章87節の「信仰する者よ。アッラーがあなたがたに許される良いものを禁じてはならない。また法（のり）を越えてはならない。アッラーは法を越える者は御愛でにならない」との教えを紹介され、原理主義を受け入れる人にとっても、法を越えて過激に走っている過激派を受け入れる人はほとんどおらず、イスラム教徒ではないとの統一見解になっています、と強調されました。

さらに、「罪のない人々を虐殺する行為はイスラムの教えとは完全にかけ離れたもの。過激な行為はコーザンでも禁じられており、過激派やテロリストはイスラム教とは言えません。イスラムは暴力を受け入れない平和な宗教なのです」と語られるとともに、「パレスチナ問題など欧米の問題がアラブに持ち込まれ、連帯意識、帰属意識の強い過激派の自爆テロなどにつながっていることも事実。

報復よりもまず原因を突き止めることが重要です」と、武力行使によるテロ報復では問題は解決しないと訴えられました。

◇

◇

ここで一旦、休憩を挟み、その時間を利用して、あらかじめ参加者に配布していた質問用紙を回収して、その質問をもとに、黒住宗道事務局長のコーディネーターによつてパネルディスカッションが進められました。

「イスラム教は家族関係を大切にしていると話されたが、他の宗教に対しては強気で排他的な印象を受けるのですが」「イスラム教には対話の姿勢がありますか」という質問に対し樋口会長は、「ある意味、イスラムの核心をついているかも知れませんね」とも前置きしながら「コーザンには『我々には我々の宗教がある。あなたにはあなたの宗教がある。宗教は強制してはならない』とほつきり書いてあり、他の宗教も認めています。一方、これは認め、あれは駄目というのものはつきりしていて、協調性、融通性には欠ける」という印象も与えるかも知れないが、それは生活そのものが信仰であり、イスラムに対する誇りを持っているから

さらに参加していたカトリックの信者さんから寄せられた「私たちにできる急務は何ですか」との質問には、RNNの3人のメンバーがそれぞれ意見を述べました。

「イスラム教の中での原理主義と同調する人はいても、法を超えて自爆テロなどに走る過激派はイスラムではないとの共通の認識を持つています」と答えられました。

また、「イスラム教の中での原理主義との対立はないのですか」との質問に対しては、「頗る憂い、コーザンに帰れ、原点に戻ろうと訴える原理主義者との対立はあります」と回答されました。

「イスラム教の中での原理主義との対立はないのですか」との質問に対しては、「頗る憂い、コーザンに帰れ、原点に戻ろうと訴える原理主義者との対立はあります」と回答されました。

「イスラム教の中での原理主義との対立はないのですか」との質問に対しては、「頗る憂い、コーザンに帰れ、原点に戻ろうと訴える原理主義者との対立はあります」と回答されました。

力トリック

黒住教

金光教

最上稻荷教

真言宗

創価学会

天台宗

天理教

プロテстант

立正佼成会

臨済宗

日本ムスリム協会



約300人の参加者の前で閉会の挨拶を述べる宮本初代委員長



コーディネーターを務めた黒住宗道事務局長



カトリック岡山教会神父
後藤正史

後藤正史・カトリック岡山教会神父は、「テロ包囲網よりも貧困、病、暴力、この3つの人類の大きな敵と闘わなければならず、貧困包囲網が必要です。私たち宗教者は国家の論理に巻き込まれずに、暴力と憎しみとの悪循環を断ち切り、復讐や仕返しという手段に訴えるのではなく、命を大切にして対話の道を開けるように積極的に働きかけを行かねばなりません。相手の立場に自分の身を置き、思いを寄せる力、共感する力が必要です。宗教者も暴力の前に無力さを感じることもあります

*下記の名称は、協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。

RNN活動協賛者名

立正俊成会岡山教会（吉田高聰教長、岡山市津島京町2丁目12の28）は、岡山商科大学のすぐ近くにあり、白い大きな箱形の建物が印象的です。

立正俊成会の庭野日敬開祖様は「宗教協力の先駆者」としてあまりにも有名で、世界平和を願い宗教者が互いに協力して力を結集していくことによくあります。WCRP（世界宗教者平和会議）は世界的な宗際活動として知られています。

なかでも1970（昭和45）に始まつたWCRP（世界宗教者平和会議）は、世界的な宗際活動として知られています。

また、その信仰理念に基づいた「一食を擲げる運動」や「明るい社会づくり運動」なども積極的に展開されています。

昨年、40周年を迎えた、岡山教会にRKK「人・思いやりネットワーク」が発足しました。これままでに岡山教会で取り組んできた各種の活動をより円滑に展開していくために再編されたものです。

人道援助活動では、「アフリカヘモブをおくる運動」「ゆめボツケ・キッズキャンペーン」「災害、紛争地域への緊急援助活動」「ユニセフ募金活動」「AMDAとの連携および協力」。

社会奉仕活動では「明るい社会づくり運動」。

RNNメンバー紹介シリーズ②
こんにちわ



が、祈り、愛の力で暴力に勝てるのです」と力強く訴えました。

子供たちの心のケアーを宗教者として戦争は絶対NO

永宗幸信副委員長は「難民や召集された予備役、さらにテレビの衝撃的な映像を見た子供たちも含め、事故で傷ついた人々の心のケアーに努めなければならぬと思います。怨みに報いるに、怨みをもつてしてはならないと仏典にあります。違いを把握して相手を理解し、共感している

くり運動」「河川美化運動」「清掃奉仕活動」「献血運動」「施設ボランティア活動」。

環境（地球にやさしい生活）活動では「リサイクル」「緑化活動」「生活環境」「省エネ・省資源活動」、さらには「留学生支援活動」など多岐にわたっています。

そんな活動の中から、RNNに

も協力して頂き、これまでにカトリック岡山教会の呼びかけでRNNの活動として実施した大阪のあたりの地区への越冬支援や、1月に発生したインド地震発生直後の毛布支援では、アフリカ用に集められていた毛布の一部をRNNに提供して頂いたほか、さまざまな形で協力を頂いています。

さらに、RNNの活動の基本となる毎月の定例会議にも何回も会場を提供して頂いています。「RKK」「RNN」と名前も似ているのもきっと何かのご縁。共に頑張りましょう。

（編集局）

くことに努めることが大切で、報復に関して、武器も戦争もNOです」と、心のケアーと武力行使の全体反対を訴えました。

このように努めることが大切で、報復



西村美智雄委員長は、「他の宗教

を認識、理解し、許容、受容してお互いに手を取り合っていけるよう互いに歩み寄らなければなりません。報道されているような表面的なことだけではなく、一人ひとりが信仰をよ

すべての人の生命の尊厳を祈り、対話、意思の表明を

閉会にあたり、宮本光研初代委員長（真言宗御室派長泉寺住職）の先導で再び黙祷行い平和への祈りを捧げました。

終了後、記者会見が行われ、樋口会長は、「事件後、イスラムを遠ざけようとするのではなく、同じ宗教の仲間として声をかけて頂いたことに感謝したい」と述べられていました。

（文責・編集局）

り深く掘り下げ、祈り、対話、意思を表明していくことが必要です。首謀者と目されているビンラディン氏も命の尊厳を持つ人間であることは間違なく、ラディン氏が悔い改め、祈ることも大切ではないでしょうか」と、信仰に基づく生命の尊厳を強調しました。

藤正史神父にRNN副委員長に就任して頂きました。



西村美智雄委員長は、「他の宗教

を認識、理解し、許容、受容してお互いに手を取り合っていけるよう互

いに歩み寄らなければなりません。報道されているような表面的なことだけではなく、一人ひとりが信仰をよ

り受け入れようとする姿勢。そこに希望の光を見たという感じです。

相手の言葉に真剣に耳を傾け、それ

ていくように、お手伝いをさせて頂ければと願っています」

なお、副委員長は天台宗本性院の永宗幸信副住職と2人になります。

このほどカトリック岡山教会の後藤正史神父にRNN副委員長に就任して頂きました。

後藤神父は1954年生まれ。西村委員長と同じ北海道の出身です。大

阪市立大学で社会学を専攻され、大阪外国语大学及び広島大学で朝鮮語学を学ばれ、さらに上智大学で神学を修められました。90年にカトリック司祭（神父）になられ、広島職教会、尾道教会、観音町教会を経て、

な驚きを感じました。いろんな宗教の方々、それも個性溢れる若手の面々が定期的に集まって熱心に話し合い、平和、幸福、喜びという同じ目的に向かって手を携えて歩こうとする姿

は小さな平和の世界が実現されました。ここ岡山から世界に広がります。

そこで、岡山から世界に広がります。

シンボル後藤正史神父（右から3人目）、河田直子さん（左から2人目）を囲んで

◇ 日本ムスリム協会が新たなメンバーに ◇



今回のボランティア講座に講師としてお越し頂きました日本ムスリム協会の樋口美作会長と、一緒に参加して頂きました河田直子さん（神戸市）にRNNに加盟して頂くことになりました。よろしくお願いします。

（シンボル後藤正史神父（右から3人目）、河田直子さん（左から2人目）を囲んで）

